

データプロジェクター 日本語表記作成ガイド

2024年3月制定

(Mar, 2024)

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

Japan Business Machine and Information System Industries Association

データプロジェクター部会 プロジェクター用語分科会

データプロジェクター部会 委員構成表

(部会長)	小柳 和幸	シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社
(副部会長)	赤岩 昇一	セイコーエプソン株式会社
(委員)	深野 和靖	カシオ計算機株式会社
(委員)	久保 良生	株式会社リコー
(委員)	井上 益孝	パナソニック コネクト株式会社
(委員)	宮田 保幸	富士フイルム株式会社
(事務局)	竹内 真	一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

プロジェクター用語分科会 委員構成表

(分科会長)	名取 孝	セイコーエプソン株式会社
(委員)	大野 幸司	株式会社リコー
(委員)	鈴木 春義	シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社
(委員)	米谷 功	パナソニック コネクト株式会社
(事務局)	竹内 真	一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

制 定：2024年3月

原案作成：データプロジェクター部会 プロジェクター用語分科会

制 定：データプロジェクター部会

このガイドについての意見又は質問は、一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 データプロジェクター部会へお願いいたします。

〒108-0073 東京都港区三田 3-4-10 リーラヒジリザカ 7 階 Tel 03-6809-5010 (代表)

日本語表記作成ガイド改訂の履歴

	制定・改訂年月	内容
第1版	2024年3月	・日本語表記に関する作成ガイドを制定

目次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 ガイド使用時の留意点	1
4 作成の手引き	1
4.1 原則	2
4.2 使用する用語	2
4.3 日本語の使い分け	2
4.4 不適切な表現	3
4.5 否定表現	3
4.6 あいまいな表現	4
4.7 用語の組み合わせ	4
4.8 表示	4
4.9 翻訳を踏まえた表現	5
附属書 A (参考) チェックリスト	7
附属書 B (参考) 同音異義語および同訓異字の使い分け	9
参考文献	10

白 紙

日本語表記作成ガイド

序文

このガイドは、データプロジェクターの日本語表記を作成・決定する際に、ユーザーが戸惑うがないよう、表記や表現、用語について配慮すべき事項をまとめたものです。ただし、このガイドはすべての表記を網羅したものではなく、多くのデータプロジェクターに適用できる表記について規定しています。

ここで言うデータプロジェクターとは、自動データ処理装置からの画像情報を含む電気信号を光信号に変換し、投影スクリーンに投影する表示装置を指します。

1 適用範囲

このガイドは、プロジェクター本体への表示だけではなく、オンスクリーンメニューやアプリケーションソフトの画面表示、および取扱説明書等に用いられる表記を対象としています。

2 引用規格

次に示す規格は、本ガイドの規定の一部を構成するために引用されます。また、これらの規格は本ガイド第1版を制定時に参考にしたものであり、その後の改正版（追補を含む）が発行された場合は、改正版を優先するものとします。

- ・ 常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）（平成22年11月30日内閣告示）
- ・ 現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）（昭和61年7月1日内閣告示）
- ・ 送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号）（昭和48年6月18日内閣告示）
- ・ 外来語の表記（平成3年内閣告示第2号）（平成3年6月28日内閣告示）

3 ガイド使用時の留意点

このガイドを使用する場合には、次の点に留意してください。

- ・ このガイドは、新たな日本語表記を作成する際の手引きとして利用することを目的としています。
- ・ 掲載内容はあくまでも例示であり、各社の方針や実際の状況に応じて適切に適用を判断してください。
- ・ 例外が発生する場合は、その理由や定義を明確にしたうえで運用してください。

4 作成の手引き

日本語表記の作成にあたり配慮すべき具体的な事項について、以下に示します。

なお、附属書Aには日本語表記に関するチェックリスト、附属書Bには同音異義語および同訓異字の使い分けの例を掲載しています。

4.1 原則

日本語表記に使用する漢字、仮名遣い、送り仮名、および外来語の表記に関しては、第2項「引用規格」に記載した内閣告示類に従うことを基本とします。また、このガイドの末尾に掲載している参考文献も参考にしてください。

なお、表記や表現、および用語は、少なくとも同一製品内では表示媒体ごとに統一を図ってください。

4.2 使用する用語

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
2-1	社内および当該業界内のアルファベットを用いた略号は使用しない。	OSD	メニュー, オンスクリーンメニュー	略号を使用したほうが説明しやすい, 理解しやすい場合は, 説明書の初出部分で説明したうえで使用する。
2-2	社内だけで通用する用語は使用しない。	PJ	プロジェクター	社内だけで通用する用語かどうかは, 他社で使用している用語を参考にするなどして調査する。
2-3	“ヶ”と“カ”は使用しない。	①1ヶ所, 1カ所 ②2ヶ月, 2カ月 ③3ヶ国, 3カ国	①1か所 ②2か月 ③3か国	“ヶ”, “カ”は“箇”の略字であり正式な表記ではないため使用しない。 “一箇所”, “二箇月”は公用文表記。

4.3 日本語の使い分け

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
3-1	常用外漢字および旧字は使用しない。常用漢字にないものは, ひらがな, またはカタカナにする。	歪み・歪む 予め 埃 蝟足配線 頁 10分毎 ～下さい	ゆがみ・ゆがむ, ひずみ・ひずむ あらかじめ ほこり たこ足配線 ページ 10分ごと ～ください	
3-2	読みが難しい漢字および誤読につながる漢字は, “かな”にする。	塞ぐ	ふさぐ	
3-3	複合語(動詞)の送り仮名は, それぞれの語の送り仮名の付け方による。	切替える 呼出す 取扱う 取外す	切り替える 呼び出す 取り扱う 取り外す	
3-4	外来語による表記と日本語表記の両方が一般的な場合には, 日本語を優先する。	オート アウトプット インプット	自動 出力 入力	外来語による用語が普及して, 該当する日本語表記よりも広く認知されている場合は, この限りではない。また, 意味や解釈が異なり, 使い分けされている用語については, 適切に区別すること。

4.4 不適切な表現

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
4-1	ジェンダーフリーに配慮した表現を使用する。また、使い方によっては差別的と受け取れる表現は使用しない。	①サービスマン ②～でさえ ③～じみた ④せいぜい ⑤マスター/スレーブ, プライマリー/スレーブ	①サービス担当者, 担当サービス, サービスエンジニア ②～④は使用を控える ⑤主/副, メイン/サブ, プライマリー/セカンダリー	
4-2	不当な表示（ユーザーに誤解を与える表現）は避ける。	次の表現は原則使用しない。 ①永久を意味する用語 永久, 永遠, いつまでも ②完全を意味する用語 完全, 完璧, 万能, 万全 ③安全を意味する用語 安全, 安心 ④最上級を意味する用語 最高, 最大, 最小, 最高級, 超 ⑤優位性を意味する用語 世界一, 日本一, 抜群, 画期的 ⑥比較を表す用語 どれよりも, このクラスでは, かつてない		左記は, “家庭電気製品製造業における表示に関する公正競争規約”の一部である。事実と相違する表示, 事実を著しく誇張した表示, 使用に当たり重要な事項についての不明瞭な表示, 合理的な根拠のない表示を行うと誤認されるおそれがあります。
4-3	製品に対して人の生死に例えた表現は使用しない。	延命	延長利用	製品の耐用年数を表す製品寿命や部品寿命は, この限りではない。
4-4	色の情報に限定した操作案内をしない。	緑色で表現した基板には触らない。	図で示した基板（緑色）には触らない。	色の情報が主となる操作案内のときは, 色覚の多様性に配慮して, イラストや操作部の番号を付加すること。
4-5	音の情報に限定した操作案内をしない。	カチッと音がするまで押します。	カチッと音がするまで押して, エラーメッセージが消えていることを確認します。	音の情報が主となる操作案内のときは, 聴覚障がい者に配慮して, 視覚情報でのフィードバックを付加すること。

4.5 否定表現

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
5-1	マイナスイメージの用語は使用しない。			利点となる状況または内容を表現するようにする。
5-2	二重否定の表現や, 二重否定となる設定選択項目の使用は避ける。	非表示（しない・する）	表示（する・しない）	推奨例のように肯定的な表現にするなどして, 一読して意味が読み取れる表現とする。
5-3	否定用語を使用する場合は, 係り受けを明確にする。			

4.6 あいまいな表現

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
6-1	対象や基準が明確でない用語、特定の意味/特定の状態を示さない用語は、単独での使用を避ける。	モード	カラーモード、ファンモード	
6-2	程度のはっきりしない用語は、用語の近傍で定量的な説明を併記する。	高輝度 高コントラスト 長寿命	10,000 lm の高輝度 高コントラスト (20,000 : 1) 20,000 時間の長寿命	
6-3	異なる表現の同義語を使用しない。	投影	投映	少なくとも同一製品においては表記を統一する。

4.7 用語の組み合わせ

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
7-1	係り受けが曖昧な複合語は使用しない。	標準ファイル設定	標準ファイルの設定	
7-2	省略前と省略後とで受け取り方が変わる可能性がある場合は、省略しない。	初期化	全設定初期化、登録信号 初期化	操作画面または操作状況によって、省略されている情報が理解される場合は、この限りではない(8-5項参照)。ただし、省略された表現は誤訳の懸念があるので、翻訳時は適宜情報を補うなどの配慮が必要です。
7-3	意味がわかりにくい、誤解されるような造語は使用しない。			新規の造語を使用する際は、説明書の初出部分で説明したうえで使用する。

4.8 表示

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
8-1	計量単位を示す数字には、直後または近傍に単位を表示する。			
8-2	外来語にはカタカナを用いる。	ぼたん のぶ	ボタン ノブ	
8-3	数字は算用数字を用いる。	二色コピー	2色コピー	語句を構成する要素である数字、慣用句には漢数字を用いる。 一部分 二度 第三者 四角形 十分な～
8-4	用語内の記号には次のルールを用いる。 ① “/” or, or+and ② “~” 範囲 ③ “・” and ④ “:” 説明, 注釈 ⑤ “()” 補足情報		①有線/無線 ②0℃~40℃ ③吸気口・排気口 ④最大出力: 257 W ⑤投写レンズ(別売品)	

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
8-5	状況が理解できる場合は、一部の表現を省略して簡略化してもよい。	[映像調整] → [明るさ調整] [初期化] → [ユーザー設定初期化]	[映像調整] → [明るさ] [初期化] → [ユーザー設定]	
8-6	カタカナを用いるときは、全角を使用する。	キースト ン コンピ ューター レンズ スクリーン	キースト ーン コンピ ューター レンズ スクリーン	
8-7	メッセージの中でボタンやキーの名称を表示するときは、分かりやすくするために括弧などの記号で囲う。	映像モードを選択し、決定ボタンを押す	[映像モード] を選択し、 <決定>ボタンを押す	

4.9 翻訳を踏まえた表現

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
9-1	ボタンやキーの名称を翻訳者が区別するために括弧などの記号で囲う。	映像モードを選択し、決定ボタンを押す	[映像モード] を選択し、 <決定>ボタンを押す	
9-2	言語によらず表示領域に収まるよう、最大文字数を考慮した文章にする。			
9-3	記号（例：注記の「※」）は日本語以外の言語では通用しない場合があるので留意して使用し、他の記号や言葉に置き換える。	※ 1	* 1	
9-4	1つの文章内に「～のとき」と「～の場合」の両方を、またはいずれかを重ねて使用しない。	<ul style="list-style-type: none"> 指示に従わない場合、保証が受けられない場合があります。 指示に従わない場合、保証が受けられない場合があります。 	指示に従わない場合、保証が受けられない場合があります。	
9-5	省略すると正しく翻訳されない可能性がある場合は、省略しない。	全初期化	全設定初期化 登録信号初期化	メニューの操作手順などによって、省略されている情報が理解される場合はこの限りではない。
9-6	社内および当該業界内のアルファベットを用いた略号や、社内ではしか通用しない用語は使用しない。また、和製英語（カタカナ）をそのまま英語に変換して使用しない。	コンセント パソコン PJ	outlet personal computer プロジェクター	
9-7	係り受けがあいまいな文章表現をしない。	投写したい映像やテストパターンを選択する。	<ul style="list-style-type: none"> 両方にかかる場合： 投写したい映像や投写したいテストパターンを選択する。 映像のみかかる場合： 投写したい映像や、テストパターンを選択する。 	不適切な例では「投写したい」が「映像」のみか「テストパターン」にもかかるのかがわからない。 係り受けが分かればその限りではない。

No.	内容	不適切な例	推奨例	注記
9-8	機械翻訳をする場合の誤訳を避けるため、適切な長音記号を使用していることを確認する。	Unicode の場合 「-」 (U+2015) 「-」 (U+FF0D)	Unicode の場合 「一」 (U+30FC) 「-」 (U+FF70)	

附属書 A (参考) チェックリスト

No.	内容	チェック	参照項目
1	ジェンダーフリーに配慮しているか		4-1
2	差別的と受け取られる表現を使用していないか		4-1
3	人の生死に例えた表現を使用していないか		4-3
4	色の情報に限定した操作案内になっていないか		4-4
5	音の情報に限定した操作案内になっていないか		4-5
6	二重否定となる表現は使用していないか		5-2
7	否定している対象がはっきりしているか		5-3
8	外来語はカタカナで表記しているか		8-2
9	社内や業界内でしか通用しない用語や略号を使っていないか		2-1 2-2 9-6
10	”ヶ”と”ヵ”を使用していないか		2-3
11	使用している漢字は、”常用漢字表”に記載されているか		3-1
12	読みが難しい漢字や誤読されるやすい漢字を使っていないか		3-2
13	使用している仮名遣い・送り仮名は、”現代仮名遣い”に従っているか		3-3
14	使用している外来語は、”外来語の表記”に従っているか		3-4
15	英語、外来語、日本語の表記は、より一般的な表記を使用しているか		3-4
16	ユーザーに誤解を与えかねない表示をしていないか		4-2
17	マイナスイメージを与える用語を使用していないか		5-1
18	容易に意味を類推できる表現、状態を特定できる表現を使用しているか		6-1 6-2
19	同一製品内または関連製品の間で、同義語や同音異義語が混在していないか		6-3
20	係り受けが曖昧な文章表現をしたり、係り受けが曖昧な複合語を使用したりしていないか		7-1 9-7
21	受け取り方が変わるような、部分的な表現の省略をしていないか		7-2 9-5
22	ユーザーが理解できない造語を使用していないか		7-3
23	数字に単位を付けているか		8-1

No.	内容	チェック	参照項目
24	数字の表記（算用数字、漢数字）は適切か		8-3
25	記号の使い方は適切か		8-4
26	必要以上に冗長な表現を使用していないか		8-5
27	カタカナを用いる場合は全角になっているか		8-6
28	メッセージのボタンやキーの名称は括弧などの記号で囲われているか		8-7 9-1
29	他言語に翻訳した場合の最大文字数を考慮したか		9-2
30	日本語固有の記号（例：注記の「※」）を使用していないか		9-3
31	「～のとき」および/または「～の場合」を重ねて使用していないか		9-4
32	機械翻訳をする場合の誤訳を避けるため、適切な長音記号を使用しているか		9-8

附属書 B (参考)

同音異義語および同訓異字の使い分け

読み	漢字	意味・用法
あたい	価	売買されるものの値段または代金。
	値	抽象的な値打ち。数値。
あわせる	合わせる	一致させる。
	併せる	複数のものをひとつにする。
いじょう	異常	普通ではない。正常の対語。
	異状	平常と異なる様子。
かえる・かわる	変える	前と異なるようにする。
	換える	全く別のものと交換する。
	替える	同等・同種のものと同替させる。
	代える	代用する。代役をさせる。
こえる	越える	障害物の上を通過して先へ行く。
	超える	ある基準または数値を上回る。
ていけい	定形	目的に合わせて決めた一定の形。
	定型	一定の型。

参考文献

- JBMS-85 : 2022** ユーザーインターフェイス用語作成基準
一般社団法人 ビジネス機会・情報システム産業協会
公用文作成の考え方（建議） 文化審議会
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93651301_01.pdf
家庭電気製品製造業における表示に関する公正競争規約及び施行規則（令和5年4月27日変更認定）
公益社団法人 全国家庭電気製品公正取引協議会
<https://www.eftc.or.jp/code/notation/>
- NHK 漢字表記辞典 NHK 出版
朝日新聞の用語の手引き（改定新版） 朝日新聞出版
記者ハンドブック 新聞用字用語集（第14版） 共同通信社
外来語（カタカナ）表記ガイドライン（第3版） 一般社団法人 テクニカルコミュニケーター協会
https://jtca.org/tcwp/wp-content/uploads/2023/06/katakana_guide_3_20171222.pdf
日本語スタイルガイド（第3版） 一般社団法人 テクニカルコミュニケーター協会

注記：参考文献は、本ガイド制定時に参考としたものです。また、記載の URL は、本ガイド制定時のものであり、当該 WEB サイト運営元の都合により変更される可能性があります。

データプロジェクター日本語表記作成ガイド

編集 兼 発行人

データプロジェクター部会 プロジェクター用語分科会

発行所

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

〒108-0073 東京都港区三田 3-4-10 リーラヒジリザカ 7階

Tel 03-6809-5010 (代表)